

“害”なんかじゃない

安芸市立安芸中学校 三年 森田 優華

“害”そこなうこと。悪くすること。「害になる」

(出典・広辞苑より)

私は障害者という言葉が好きではありません。

なぜなら、害の文字から連想されるイメージが“害虫”“有害”などあまり良くないからです。

身体・知的・精神に何らかの違いがあるというだけで、なぜ“障害”と呼ばなければならないのでしょうか。その違いも、大多数の人から勝手につけられたもので、違いをつけられた少数派の人から見れば迷惑千万だと思えます。

父も私と同じ考えのようで、障害がなく健康な人を意味する“健常者”という言葉も苦手だと言っていました。

健康といえば、今年の四月十二日にとっても悲しい別れがありました。大好きな母方の祖母が、突然天国へ旅立ってしまったのです。健康そうに見えたのに……あまりにも急な出来事に、私の頭の中は真っ白になりました。

火葬場で、真っ白な骨になった祖母を見た瞬間、人はこんなにもあっけなく終わってしまうものなのかと不思議な気持ちになりました。

七月になり、祖母の遺品の整理を手伝っていた時、一冊の青いファイルを見つけました。中には、大切にファイリングされた高知新聞の切り抜きがありました。二〇一三年一月と五月と、二〇一七年一月と四月にかけて計三十五回掲載された「エリンちゃん是不思議ちゃん アスペルガーのわが子と共に」という記事です。そこには、発達障害の一つのアスペルガー症候群であるエリンちゃんの幼少期から中学校、高校に至るまでの壮絶な親子の物語が載っていました。絵が得意なエリンちゃんが四コママンガを、母親のメイシーさんが文章を担当しています。エリンちゃんは極度に不安がったり、周りの空気が読めなかったり、感情のコントロールが苦手で爆発してしまったりと、大多数の人から見れば浮いた言動をくり返します。アスペルガー症候群の主な特性は「他人との関係や社会生活に困難が多い。興味、関心が狭く、特定のことにこだわりが非常に強い。不安や気になることが多い」ことだそうです。実は、私も三歳年下の妹もアスペルガー症候群の診断を受けています。でも、エリンちゃんのように毎日暴れたり、食器を投げたりするわけではありません。

妹は空気が読めません。七歳の頃、「目に見えない空気を読めるのはおかしい」と母に詰め寄っていたのを思い出しました。心配性で、行事の前などは何時間も父母を質問攻めにしていきます。私はというと、自分の事は今一つ分からないというのが本音です。エリンちゃんは言います。「同じ発達障害でも一人違う。私の話が他の子に当てはまるわけじゃない」と。そうです。同じ診断名でも一人一人違って、いて当たり前なのです。私たちはそれぞれ個性があるので、現に私と妹も違う傾向を持ち、あるいは共通点もあり、一人の人間として成り立っています。この切り抜きを残した祖母は、一体どんな気持ちだったのでしょうか。私たち家族に対する深い愛情が伝わってきて、思わず涙があふれそうになりました。

十五歳の私の行く手には夢や希望、不安や焦りなど大きな海が横たわっています。私はあまり泳ぎが得意ではありません。高校進学や社会へとつながる大きな流れに乗れるかどうか、やはり不安が先に立ちます。

私たち家族を例えるなら、海辺にひっそりと生えた一本の木です。木には四個の果実がぶら下がり、

普段はそれぞれが好きに過ごしています。周囲からは「変わった木」とか「不幸でかわいそう」とか言われても、私たちは気にしません。強い風に吹かれると、実はお互いにくっついて寄り添いながら協力しあって暮らしています。近い将来、一つの実が海に向かって冒険に出ます。

私という実は、義務教育という黒潮の流れから一歩を踏み出します。波に揺られ浮き沈みしながらも、新天地を目指して旅することでしょう。個性的な違いのある実にとって、大多数の社会が理解のある世界であってほしいです。

“障害”ではなく“個性”。決して“害”なんかじゃない。